

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員には管理者が、オリエンテーションで理念の思いや意味を職員へ伝えています。職員室に絶えず掲示しており、理念の共有し実践。また、毎年部署目標を立て達成に向けて努力をしています。	どのような事業所にしたいかを職員全員で話し合って理念は作成された。職員室に掲示して常に職員が意識できるようにし、新入職員には理念に込められた思いや意味を丁寧に説明している。理念の実践に向け、職員行動指針と年度の目標を定め、行動指針は朝礼で唱和して意識づけを行っている。目標は毎月の職員会議で達成状況を確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の商店街にお客様と共に買い物へ出かけます。また、当事業所の納涼祭や地域の秋祭りへ参加し地域の方から「また来年もお願いします。」とおっしゃっていただけている。	地元商店に買い物に行く、近所の方々が野菜を届けてくれる、散歩の時は挨拶を交わすなど、近隣の人たちとはごく普通の付き合いをしている。また、地域の秋祭りに参加して踊りや歌を披露したり、事業所の納涼祭に招待して楽しんでもらったりしている。事業所裏手道路の草刈りや側溝掃除に地域の方々が積極的に関わっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生・高校生の体験実習・ボランティアの受け入れを積極的に行なっています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間計画を立て奇数月に実施しております。ホームの状況・事故報告・苦情などを報告し意見交換を行なっております。また、火災防火訓練にも参加し助言を頂いております。	会議は定期的開催され、家族代表、区長、地域住民、市の担当者等が参加し、事業所の現状や利用者の状況を詳しく報告して意見交換がなされている。裏山が地滑り区域に指定されているため、最新の地形図を示して避難ルートの確認を行った。苦情についても対応策の検討を継続的に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて参加していただき情報交換を行なっております。制度上の疑問点など伺いながら取り組んでおります。	運営推進会議に市の担当者が出席しており、事業所の実情を把握してもらっている。運営やサービスの課題があれば、いつでも相談してアドバイスや協力を得られる関係を築いている。非常口のスロープ取り付けや手摺りの位置など相談にのってもらい実施された。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待・身体拘束廃止委員会があり、事業所や法人全体で、勉強会が行われております。また、日々ミーティング等でも身体拘束や虐待に値しないか振り返りながら個別ケアに取り組んでおります。	高齢者虐待・身体拘束廃止委員会があり、法人全体の研修会や事業所の勉強会を行っている。事業所で「禁句3ヶ条」を作って朝礼で唱和し、言葉による拘束についての意識づけをしている。また、マニュアルを作成して全職員が携帯している。ミーティングで日々のケアの振り返りをし、虐待や身体拘束につながるようなことがないか検証している。薬物による拘束についても家族や医師と相談しながら積極的に取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待・身体拘束廃止委員会があり、事業所や法人全体で、勉強会が行われております。また、日々ミーティング等でも身体拘束や虐待に値しないか振り返りながら個別ケアに取り組んでおります。	上記項目の委員会が組織されており、法人研修会や内部勉強会で虐待防止への理解を深めている。管理者は職員の体調やストレスにも気を配り、声をかけたり面接をするなど細やかな対応をしている。職員の気付きや疑問点など、何でも書いて入れる「意見ボックス」が置いてあり、活用されている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	H24年8月まで日常生活自立支援事業を活用されていたお客様が1名いらっしゃいましたが、特養へ入所されました。現在は権利擁護に関する制度を活用されている方はおられません。実践をとおして学ぶ事ができておりました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の項目に沿って説明を行なっています。解らないところや不安なところはないか説明しながら行なっております。毎年顧客満足度アンケートを実施し不安をもたれた方がいらっしゃるか確認しております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	その日の担当受け持ち職員がお客様やご家族様の声を聞いて実現できるように努力しています。また、年に1度顧客満足度アンケートを実施し、ご意見を頂戴し改善につなげております。	毎年実施している顧客満足度アンケートの方法を少し変更したことにより、率直な意見がたくさん寄せられた。意見への回答と改善事項をまとめて家族に報告している。家族が面会に訪れた際は、ひと声かけてコミュニケーションを取り、意見や要望を把握するよう努めている。	今回の外部評価の家族アンケートに寄せられた意見に、「家族の思いをもっと聴いて欲しい」という内容のものがあつた。いろいろな方法で家族の意見や要望の把握に努めているが、今後は、家族の思いにも寄り添い安心してもらうような取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや月1回の部署会議・職員会議等で、職員の意見・議論を大切に運営しています。また、年1回危険箇所について職員から意見を聞いて改善につなげています。	職員会議、部署会議、ミーティング等は、職員が自由に意見を言える雰囲気活発な意見交換が行われている。職員が気付いたことを書いて入れる「意見ボックス」があり、それを基にミーティングや部署会議で話し合うこともある。検討結果は書面で全体に周知している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、目標管理を軸に、自分の立てた目標に向かってチャレンジし、努力を続けることを大切にするように職員に指導しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体のキャリアパスやスキルアップするための研修が年間計画であり学ぶ機会を得ています。また、法人外の研修も参加しており日々学んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人のグループホーム連絡会があり、定期的に交流を持っています。サービス向上を目指して現状の報告や意見交換、ケアプラン作成勉強会などを行なっています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様やご家族の思いを受け止め、安心していただけるように、利用前にご本人にお会いして直接お話をお聞きしております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場に立ってお話を聴き状況を把握し、対応に努めております。遠方のご家族でも電話にて連絡を取り家族の想いをお聴きしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に、ご家族や担当のケアマネから本人の状態をお聴きし、また、ご本人にお会いして、状況の把握、想いを確認しながらサービスを導入しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様の出来ること、役割を探しながら支援しております。また、その方の希望が叶うよう、対話を大切にしたり関わりや、お客様の気持ちを理解した関わりを心がけております。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時やお手紙などで、日々の様子をお伝えし、情報の共有に努めています。面会時は、お部屋でゆっくりお過ごしいただけるように配慮しています。	写真入りの広報紙に担当が本人の近況を書いて送ったり、面会、電話等で日々の暮らしぶりを伝えたりして、情報の共有に努めている。家族と毎週ドライブに出かけたり、お寿司を食べに行ったり、本人や家族の希望が叶うような方向で、共に支える関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加したり、ご面会や誕生日の外出、お客様が行きたいと思っている場所に行き、ご家族やご友人などの大切な方と会う機会を作り、関係が途切れないように努めております。	日々の関わりの中で馴染みの人や場所を把握し、誕生日外出で「つりぼり」など思い出の場所で楽しんできたり、友人を訪問したりして関係が途切れないように努めている。お墓参り等の習慣や地域行事への参加も大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の交友関係の確立されているところを大切に、居場所の配慮、食事作り、お掃除をされるなど共にできるように支援しております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をされ、その後の対応を家族が不安を感じたりした時、病院の話し合いに同席させていただいたり、医療連携室を通じて支援したりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを持ちながら本人の想いの把握に努めています。困難な場合は、チームでケアできる様カンファレンスシートでご家族の意向も踏まえ検討しています。	「その人を良く知ろう。」という気持ちから始まり、利用者がリラックスできる雰囲気を作り、日常生活の会話の中から思いや意向の把握に努め、具現化できるよう積極的に取り組んでいる。また、困難な場合は家族等から、これまでの暮らしぶりの情報を聞き、本人の意向を汲み取るよう努めている。法人のグループホーム連絡会で検討し、昨年よりアセスメントシートの記録をわかりやく記入するようになり、分析力が向上した。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前訪問で情報を得たり、ご本人やご家族の意向もセンター方式シートを活用して情報を得ています。その情報を基にご本人の思いやご家族の想いを大切にし関わりを目指しています。	最初の事前面接だけでなく、それ以降も継続して本人、家族から生活歴、生活環境等、これまでの利用者が過してきた歴史等の把握に努めている。本人の兄弟や姉妹等、親戚からも情報を得ることもあり、利用者を知る大切な機会となっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況を全職員が把握して、ご本人ができる事を大切に、役割を持っていたけようミーティングで検討し、本人が安心して過ごしていただけるように心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期のモニタリングやアセスメントで、気づき、ご意向からカンファレンスをし、活発な意見交換を行なっています。ご本人やご家族のご意向も大切に介護計画を作成しております。	ケアプランマニュアルが策定され、それを基にサービス提供状況を確認し、介護計画の見直しを実施している。利用者、家族の意向を確認しながら、利用者の状態変化等の把握と、日頃の気づきを昼ミーティングで話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やちょっとした変化を個々の記録に残すように努力しています。少しでもいつもの状態と違いのある時は、ミーティングで話し合い、介護計画の見直しを行なっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に合わせて、通院等の支援を行っております。身寄りのない方の入院時には必要な物を届けたり、洗濯等の支援を行なっています。また、配食サービスの配達も協力し地域の方と交流しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の学校や消防などへ働きかけを行ったり、運営推進会議には地域の方に委員になっていただき連携を図っております。地域の方より畑をお借りし、野菜作りなど行い季節感を味わっていただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携を重視して、入居時に同意とご納得をいただいてからかかりつけ医の変更を行っております。現在は入居者全員がかかりつけ医での受診をし受診時には、ホームでの様子を詳しくお伝えし、適切な医療を受けられるように支援しています。	かかりつけ医の受診は、基本的に職員対応だが、利用者や家族の要望にも臨機応変に対応している。業務マニュアルにて受診時の対応もしっかり策定され、受診時の持ち物等も明記され、かかりつけ医との連携がスムーズに行われるよう工夫している。何よりも協力医療機関の江口医院との関係はとても良好である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調チェック表にバイタル測定値や特記事項を記入し、看護職の定期的にチェックしてもらいながら日々日常的な連携に努めています。事故や異常時は速やかに相談し早期に医療機関へつなげられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたときは、面会に行き状態確認をしています。退院時の指導も等も受けています。また、家族や病棟の看護師と連携を取って退院への支援をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	お客様の家族が不安に思われ、問われてこられます。そのため、ご本人の状態も考え十分に方向性を話あった上で、事業所でできる精一杯の支援をさせていただいております。	ターミナルケースは、家族、主治医と話し合い、本人の立場になって、チーム支援を行っている。研修で学んだことを積極的に活かし、より良い支援体制の構築を目指している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習を受け基本を学んでおります。施設内や、ホーム内の勉強会で訓練を行い、対応を身につけるようにしています。また、AEDの操作方法も学んでいます。	年に一回、救急法やAEDの研修会を開催し、職員が繰り返し学んで技術を身につける仕組みとなっている。また、業務マニュアル「緊急時の連絡対応手順書」を設置したり、携帯9台を購入し急変や事故発生時の為に、早期対応ができるよう努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各棟での避難訓練を定期的に行い、各職員がスムーズに行動ができるようにしています。年1回の総合防災訓練では、地域の消防団の方にも参加して頂いております。全職員が昼夜の想定訓練をしています。	日中夜間等のあらゆる想定をして毎月一回、避難訓練を開催している。また、年一回、地域住民や消防団の参加により総合防災訓練も行っている。加えて地域主催の防災訓練にも積極的に参加している。運営推進会議で、昨年から一年をかけ土砂災害危険地域の為の独自のマニュアルを策定した。また、利用者重度化の対応によるスロープを設置する等、マニュアルや避難経路の見直しもかかさず実施されている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様一人ひとりの人格を尊重した言葉がけを意識しています。不必要に大きな声での会話や、カーテンや扉の開閉に配慮するなど、プライバシーにも配慮した対応を心がけています。人権の尊重できるように、法人で作った「禁句3ヶ条」を毎日唱和して意識を高めています。	朝礼にて「禁句3ヶ条」を毎日唱和している。また、同施設の「たちばな会議」で全職員が、利用者の尊厳や権利を守るための周知、理解する時間を持ち、利用者本人の気持ちを尊重し言葉かけや対応ができるように日ごろから心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴に心がけて、思いや希望を言いやすいように努力しています。特に、食べ物のご希望はお客様から出やすく、飲み物やお菓子の希望は沢山聞いています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を聞きとり少しでもご希望に添えるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服などの選択など、その人らしくいられるようにご本人にもお聞きしながら配慮しています。また、必要に応じて介助しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの芽取り、野菜の皮むき、食器拭きなどを声をかけながら行なっています。率先して行なってくれる方もいらっしゃいます。また食事もお客様、職員と共に食べています。	調理師や管理栄養士資格を持つ介護職員を含む全職員で献立を考え食事を提供しているので利用者からの評判は良い。食材の買い出しや下準備、片付け等、利用者と職員が一緒に行っている。また、利用者と職員が食事を一緒に摂りながら、楽しい食事となるよう支援している。お茶碗や湯飲み等、利用者の馴染みの物を利用し自宅で過ごしていた頃と同じ雰囲気です。食事ができるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事では、一人ひとりに合った量や形態の検討をしながら提供をしています。水分量の少ない方には、ご本人の好まれる物を提供しています。また、体調の変化もしっかりと記録し、医療につなげています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きやうがいをお客様ご自身でできるように声をかけたり、見守りながら行なっています。磨き残しのある方には介助し。また舌の汚れのある方には舌ブラシを使用し清潔に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導や排泄チェックを個別に行なっています。排泄パターンのデータを取り、サインを見逃さず、失禁を減らすためにトイレでの排泄を促しています。オムツ外しを心がけ、失禁パンツにパットや布パンツへの使用に努めています。	定時のトイレ誘導だけでなく、利用者の表情や様子から察知し、さりげなく誘導を行っている。「排泄チェック表」や各種紙パンツ等を活用し利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、その人に合った排泄介助を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂っていただき、自然排便ができるように、努めております。また、散歩や体操など毎日継続し、便秘予防となるような食事にも配慮しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に添える努力と体温や血圧が安定されている時間帯に入浴していただけるようにしています。	一人ひとりの意向を尊重し時間帯や回数を検討する等、最低でも週2回以上入浴できるよう、利用者のニーズに合わせた入浴支援を行っている。入浴を拒む人に対しては、言葉がけや介助者を変える等、対応方法を工夫し、決して無理強いしないよう心がけている。入浴剤等も活用し入浴を楽しめるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を多くし、夜間眠れるように関わっています。本人の就寝時間に合わせて眠っていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬の一覧表を作成し、誤薬にならないように職員同士確認しながら服薬を行っております。薬の開始、中止など変更のあるときは、理由を明確にし記録して周知。医師や看護との連携を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、踊り、オルガン演奏、掃除、縫い物、編み物、買い物など一人ひとりの得意な事、出来ること、役割を持っていただき、職員も楽しみながら支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など外に出かける事を大切にしています。誕生日にはご本人の希望をお聞きし、馴染みの場所へ出かけています。	本人や家族から情報を収集し外出計画に反映させている。毎日の買い物だけでなく職員もアイディアを出し、「ベルナティオ」、「花レストラン」や秋山郷の紅葉狩り等に外出している。また誕生月には、本人の要望をできる限り叶え外出できるように努めている。「かっぱ寿司」は、大人気の外出先の一つである。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、ご本人とご家族の意向を確認しています。事業所としては基本的にお金はお預かりしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様自ら電話をかけたいとおっしゃる方はほとんどおりません。電話がかかってこられた時にはやり取りができるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾り付はお客様と一緒に作った作品を毎月飾って季節感を感じられるような装飾を行っています。生活感を感じられるように季節の野菜(畑で採れたもの)を使い食事を作っています。また、テレビの配置も過ごしやすい様、お客様と相談し共用空間で楽しめる工夫をしています。	広々としたリビングは天井が高く、フローリングの他に小上に畳を配置している。コタツを設置し自宅と同じようにくつろげる空間作りが演出されている。廊下の飾り付けや家具の配置は、職員の手作りであり、安全かつ生活感や季節感のあるものを活用している。また、いたるところに観葉植物の緑が多く、花の香りにも優しく包まれ居心地の良さが伝わってくる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席などで、気の合ったお客様同士お話やゲームをされて過ごされていらっしゃる。天気の良い日には、陽のあたる場所でお茶のみ、日向ぼっこ、窓際に椅子を置いて外を見たりし落ち着いて過ごせるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にはご本人の使い慣れた思い出の品(タンス等)や、写真などもち込んで頂いています。また、馴染みのある物を持ち込んでいただけるよう、声もかけさせていただいています。自作の作品等を飾ったりしています。部屋は洋室、和室があり、お客様の動きや希望にできる限り答えられるようにしています。	利用者や家族の希望される衣裳ラックや寝具、写真等の思い出の品々が持込まれている。フローリングだけでなく畳も配置され、本人の気持ちや状態を勘案し選択できるようになっている。プライバシーを大切に利用者一人ひとりに即した居心地が良く安心して過ごせる空間を提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎年、危険箇所の点検を職員で行い改善してきました。		